

建設上下水道常任委員会で視察研修に行ってきた。

日程は下記のとおりです。

10月16日	北海道苫小牧市	まちなか再生総合プロジェクトの事業について
10月17日	北海道室蘭市	温水プールにおける太陽光発電について
10月18日	北海道函館市	都市景観形成地域のまちづくり構想について

全国先駆け太陽光発電に取り組み、プールの電力源として活用中



今回の視察中2日目の報告です。

2011.03.11 東日本大震災による原発を事故受けて、日本のエネルギーをどう進めていくのかが問われています。平成17年、全国に先駆けていち早く太陽光発電を導入し、温水プールに電力供給を実施している室蘭市を視察してきました。

室蘭市は北海道南西部に位置し、西に向かって突出した馬蹄形の絵鞆半島(エトモハントウ)を中心に市域が広がり、南東には太平洋に面しており、白亜の地球岬を中心に約14kmの断崖絶壁が連なっています。函館港は石炭輸送で、北海道と本州とを結ぶ要衝と早くから開け、大正11年に市政が施行され、今年90周年を迎えます。また、登別温泉などがあります。鉄の街としても知られ、新日本製鉄や日本製鋼所があります。

人口9万3078人、世帯数は4万7589世帯です。面積は80.65キロ平方メートルあり、久喜市とほぼ同じ広さです。人口については、ピーク時の昭和45年には16万2059人を擁した時がありましたが、オイルショックなどを経て、現在はその時から比較すると半減したことになります。

太陽光発電事業では、室蘭新エネ開発株式会社が事業主体となり、計画事業費6000万円 計画発電量は年間5万730kw(キロワット) CO2削減量は、年間19t(トン) 50kW(キロワット)パネルを300枚 400平方メートルに設置、発電したすべての電力を、入江運動公園温水プールに活用しています。